

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572100842
法人名	医療法人社団 慶城会
事業所名	グループホーム仰星台 入綾
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰丙1494-1 (電話) 0982-50-7080
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 9 月 30 日

## 【情報提供票より】(平成21年9月11日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要( 9月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 98 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院 土田歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「生活」に視点を置き、家事その他、残存能力を引き出すことを目的に認知症高齢者の自立支援のケアに取り組んでいる。管理者を中心に職員全員が協力し合い、家族が安心して頼れる、地域に密着したホームとして利用されている。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題ではないが、日中は門扉に鍵をかけていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義とねらいについて管理者が説明し、職員全員で自己評価に取り組み管理者がまとめ、勉強会で改善点についても話し合っている。評価は職員の日頃のケアを振り返る良い機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族代表、消防部長、公民館長、民生委員、地域自治センターの保健福祉課等の参加で運営推進会議が3か月ごとに開催され、外部評価や利用者の状況と行事の報告等を行っている。今後、2か月に1回の開催になり運営推進会議がさらに活用されるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪時に話を聞いている。また、運営推進会議に家族代表も出席し、玄関にも苦情箱を設置して意見を聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し回覧板を回してもらったり、地区の清掃や祭りに参加し、近くの保育園のお遊戯会に招待されたり、散歩途中に立ち寄ってもらうなどの交流も利用者の喜びとなっている。また、近所の人が野菜を持ってきたり、草刈りもしてもらっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で利用者主体の残存能力を活かしながら自立支援を基本に地域密着型として作りあげた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で意見を出し合って作られた理念は、玄関と事務室に掲示されており、職員は率先して日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し回覧板を回してもらったり、地区の清掃や祭りに参加し、近くの保育園のお遊戯会に招待されたり、散歩途中で立ち寄ってもらうなどの交流も利用者の喜びとなっている。また、近所の人々が野菜を持ってきたり、草刈りもしてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて管理者が説明し、職員全員で自己評価に取り組み管理者がまとめ、勉強会で改善点についても話し合っている。評価は職員の日頃のケアを振り返る良い機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族代表、消防部長、公民館長、民生委員、地域自治センターの保健福祉課等の参加で運営推進会議が3か月ごとに開催され、外部評価や利用者の状況と行事の報告等を行っている、		運営推進会議でサービス向上に活かせるような意見を求める工夫を期待したい。また開催頻度が2か月に1回程度に充実することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域自治センターの保健福祉課とは運営推進会議以外にも判断が出来にくい事を気軽に相談等している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に利用料請求書を送る際に担当職員が自筆で近況を報告するとともに来訪時に話し合っている。また、四季に発行される「入綾だより」は行事等を写真入りで報告しているので、家族に大変喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に話を聞いている。また、運営推進会議に家族代表も出席し、玄関にも苦情箱を設置して意見を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員が辞めるとき、利用者に事情を理解してもらえるように話し、新しい職員も早く馴染めるように利用者へ寄り添うように配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が職員の資格取得や研修受講に理解があり、全職員が経験年数等も考慮して、出張として研修を受講し、復命書により、勉強会で報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域のグループホームの管理者が毎月集まり情報交換をし、また、近くの市町村、更に、県北地域まで情報交換の場を拡げサービスの質を向上させる取り組みをしていこうとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は利用者の望みや思いこみを受け入れながら、徐々に慣れ親しむように、他の利用者にも認められるように支援するとともに、ドライブで気分を変えたり家族と協力し合いながらの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に沿って、本人の残存能力を活かし、料理や裁縫、食事の後片づけなどを一緒にしながらともに支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や日々のケアの中での会話や行動を通して意向の把握に努め、残存能力の活用や自立に向けた支援を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者(ケアマネジャー)は一人ひとりのケア記録や経過、評価を基に介護計画を作成し、本人、家族、職員に説明し意見を聞いている。		介護計画は、本人、家族、職員等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は介護支援経過と毎月行っている評価を基に3か月から6か月に1回行っている。状態変化に応じて随時見直しも行っている。		介護計画は毎月の評価を活かして、状態変化が無くとも3か月に1回は見直しをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ病院受診や美容院など柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望するかかりつけ医に月2回通院し、週1回は往診を受けている。他科受診も適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に重度化した場合や終末期のあり方について、説明し同意をえているが、状態が変化した場合は家族とかかりつけ医師を交えて話し合い適切な対応が出来るように支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの生活歴に沿った、趣味や好み、習慣を知っており、言葉かけや対応もやさしく対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士の関係が非常に良いので話を聞いたり、利用者のペースにあわせ寄り添い、新聞紙を折ったり、買い物に一緒に行ったり希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者同じテーブルで話しかけたり、さりげなく介助しながら一緒に食事をしている。後片付けも一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は毎日入浴するのが日課となっており、職員も進んで手伝いをするのが慣わしとなって、入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃は新聞たたみ、洗濯物干しやたたみなど食事の後片づけなど家庭と同じように自主的にされている。月1回の音楽療法は、早口言葉や太鼓、ハンドベルなどがあり、楽しそうに利用者がいつも待ち望んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物などできるだけ戸外に出かけるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や門扉の鍵は日中はかけていないが、夕方は帰宅願望の人が落ち着かないため、車の往来が多い道路沿いの門扉は鍵をかけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火訓練等と緊急連絡など2か月に1回は何らかの訓練を行い、近隣住民の協力も得られるようになっている。災害に備えて食料や水の備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量を把握し、食事形態も刻みや柔らかくし、一人ひとりの状態に応じて、支援している。		いろいろな食材を利用者が好んで食べられるよう美味しそうに調理されているが、前回と同じように、同法人の管理栄養士に栄養バランスなど一度相談されてはどうかだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは全面ガラス窓になっているので、川沿いの堤防を通る人や、山が見え温かい光に利用者が何時も団欒したり、ソファーに寝そべったり居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、お孫さん等の写真が飾られたり、洋服を並べて掛けてあり、大きなソファーが置いてある等その人らしく整理されている。		